

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第5回看護学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年2月24日（金）10：00～12：00

場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者： 宮本委員、仲井委員、石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端、森下、平田）

III. 検討内容

今回は、看護学コアカリキュラム実現のための看護学における教育改善モデルの授業の点検・評価・改善について、前回委員会で検討した案を見直し、完成させた。その後、今後のスケジュールとして、来年度の活動内容について事務局からの説明を行った。詳細は以下のとおり。

1. 授業の点検・評価・改善

本モデルは、実践的な患者指導技術を身に付けさせることを目的に、意見交換と情報の整理統合の場を提供するための各種事例のプールと、教員連携による統合授業、学生・教員間のコミュニケーションによる学習支援の提案であることから、前回委員会では以下の通り案を作成した。さらに今回見直した結果、看護系の教員は点検・評価・改善を行い、外部コンソーシアムは教育改善などの支援を行うよう役割を分けることにし、以下の通り文章を修正した。

<前回案>

本授業は、看護学の領域、学年を超えたものであるもので、授業に関わる教員、学生、専門領域のアドバイザーが授業の進行や内容、事例についてのアンケートや学習ポートフォリオを共有し、対面やネット上で意見を述べ合い、外部のコンソーシアムなどの意見も踏まえながら総合的に評価・点検していく。

<完成版>

本授業は、看護学の領域、学年を超えたものであるもので、授業に関わる教員、学生、専門領域のアドバイザーが授業の内容、進行について学習ポートフォリオなどの情報を共有し、対面やネット上で意見を述べ合い、看護系の教員が総合的に点検・評価・改善していく。さらに、カリキュラムの編成など広い視野で教育改善を考えるため、外部のコンソーシアムなどの意見も求める。

2. 今後のスケジュールについて

来年度は、本モデルの授業を実現するための「教員の教育力」についてまず検討し、その後で、モデルを冊子として提言するために、骨子のモデルに説明文章や授業の例示、イメージ図・表、などを追加していくことにし、冊子は31分野で約400ページにまとめることにしており、報道発表も行う予定である。作業は教育力の作成も含め4月～9月に行い、各分野で4～5ページ程度ずつまとめることにし、校正までを委員にもお願いする旨を確認した。

3. モデル実現のための教員の教育力について

- ・参考4（新聞記事）にあるように、中央教育審議会では大学の授業は国際的に通用しておらず、シラバスはコースカタログになっており、個人の教員の限界となっている。重要なことは学生の学びが身についたのかどうかであり、それを実現するためにはチームで対応し、科目の整理・統合を行い、科目数の制限や科目教員間の調整を行うことで、授業の点検・評価へもつながっていくのではないかと事務局から説明があった。
- ・参考3（新聞記事）では、中央教育審議会に対して相対的な役割が望まれており、広範囲な形での議論を拡大し盛り上げていく体制づくりのために、協議体を発足させる旨の説明が事務局からあった。
- ・本協会では、上記のような動きを踏まえて、本協会からの提案としてモデルを作るに至り、モデルを実現するために必要な指導能力についても掲げることにしたことを事務局より説明した。

- ・看護系教育のもつべき学識（専門性）とは何かについて、まずはモデルに限定せず掲げた上で、次にモデルを実現するための能力をまとめることを確認した。
- ・看護学協会では若手教員向けの専門性について３月にまとめる予定であるので、教育力を検討するうえで参考にすることを確認した。

4. その他

看護教育では自らをチェックして反省する機能としてチェックリストを用いているが、チェックリストの本来の趣旨を理解せず、リストがないと先に進めない学生がいる現状を受けて、今後の冊子編集の際の例示などに入れることにした。

以上